

# 情報科教育法a 情報科教育法

## 第10回

## スケジュール

授業回数	大宮	枚方	内 容
1	4/9	4/8	ガイダンス、教科「情報」の構成と教員免許について
2	4/16	4/15	情報教育の成立過程
3	4/23	4/22	学習指導要領と情報教育
4	4/30	4/29	教材研究
5	5/7	5/13	教材研究
6	5/14	5/20	教材研究
7	5/21	5/27	授業設計の視点と流れ
8	5/28	6/3	教育目標と評価
9	6/11	6/10	テストと評価
10	6/18	6/17	授業指導案の作成について
11	6/25	6/24	模擬授業（指導案）
12	7/2	7/1	模擬授業
13	7/9	7/8	模擬授業
14	7/16	7/15	まとめ

## 本日の内容

- 前回のテストについて
- 模擬授業のための指導案づくり
- 【演習】指導案を作る

## 指導案とは

- 各授業単位の具体的な指導計画のこと
  - 年間計画と結びつきがある（第7回）
  - 1時間のみ指導案を考えるのではなく、**流れ**を考える
- 指導する各学級の**生徒の実態**及び社会や教科の系統上の要求を踏まえる
  - 同じ授業単位でもクラスによって変えるべき
  - 大きい軸は変わらない

## 位置づけ

確認項目	内 容
指導計画作成の基本的な考え方の確認	学習指導要領の「総則」、情報科の目標、各学校の教育目標を確認
生徒の実態などの把握	地域、各学校の実態の把握、生徒の発達段階や生活経験などの実態把握
教科の指導方針の確認	育てたい生徒像や指導方針の確認
各学校の教育課程の確認	授業時数、選択教科、総合的な学習の確認
年間計画の確認	題材単位または年間の指導計画の作成
単位計画の確認	授業単位の指導計画の作成

## 学習指導案作成について

- 実践現場では...
  - 毎授業ごとに書くことは少ない
  - 教育実習、研究などの場合に記述する
- しかし、教育実習や校内研修などのためではない
  - 授業の**質**を高めるため
  - 授業を**整理**するため

## 指導案とは

- 特に定められたフォーマットはない
  - **誰が読んでも理解**できる必要性
- 他の学習指導案を参考にすることも大事
  - 良い学習指導案を参考にすることは大事
  - 他人にわかりやすい学習指導案を作成すること
  - 年間計画でどの部分をやるのか明確にしていること

8

## 指導案とは

- 細かい内容まで作成する（教師の支援活動、生徒の学習活動、評価活動、教材など）
- 指導案は絶対ではない！
  - トラブルはつきもの
  - 指導案通りに授業をしなければならないということはない

9

## 指導案の内容

- 書くべきこと（絶対ではない）
- 1. 目標（単元の目標と本時の目標）
- 2. 教材
- 3. 生徒観
- 4. 使用する教材（準備物）第4～6回講義
- 5. 展開
- 6. 板書計画
- 7. 単元別の評価基準（第8回講義）

10

## 模擬授業と授業の指導案

- 指導案は通常50分、短縮授業40分を目安に作成する
- 模擬授業などでは5分、10分、15分を目安に作成する
  - 導入→展開→まとめ（3構成）
- 決められた時間で1つのストーリーとなるように
- 3つの観点が重要
- 「主体的な学習」をさせること

11

## ガニエの9教授事象

事象	No	内容	詳細
導入	1	学習者の注意を喚起する	情報の受け入れ態勢をつくる
	2	学習者の目標を知らせる	頭を活性化し、重要な情報に集中させる
	3	前提条件を確認する	今までに学んだ関連事項を思い出す
展開	4	新しい事項を提示する	何を学ぶかを具体的に知らせる
	5	学習の指針を与える	意味のある形で頭にいれる
	6	練習の機会を設ける	頭から取り出す練習をする
	7	フィードバックする	学習状況をつかみ、弱点を克服する
まとめ	8	学習の成果を評価する	成果を確かめ、学習結果を味わう
	9	保持と転移を高める	長持ちさせ、応用がきくようにする

12

## 主体的・対話的で深い学びの実現のためのポイント

- 活動させればよい、調べさせればよいというわけではない
- はじめから「学習活動ありき」ではない
- 言語活動主義に陥らないように努めることが大切である
- 「教師が教えること」と「学習者が考えること」を明確に意識して授業をデザイン（設計）する
- 「良質な問い」と「良質な言語活動」が必要である
- 生徒の疑問から「問い」を導くことから始める
- 「問い」は学習者が立てられることが理想である
- 自ら「問い」を立てられるようにするためには、段階的な指導が必須である
- 教師が待つことも大切である
- 学習者の気づき、変容を重視する
- 自己評価、相互評価を取り入れ、気づいたことを言語化する
- 学習後には「～ことに気づいた」「～ことが分かった」と振り返る

稲井, 2019

13



## 演習2

- 授業を始めるためには導入が必要になることもある
- そこで、1分～2分程度で授業の導入となる話を考え来週の頭に発表する
- ただし、どんな分野の授業をするのかなども考慮した話題を提供すること
  - 話題は2週間以内の話題とする
  - いくつか話題を持ってきて、かぶらないように
  - 発表は当日に決める

20

## 課題

1. 授業を実施するにあたり、以下のようなクラスのととき、あなたはどのように注意をして授業を実施するか考えてください（100字以上）
    - ① 授業中に特に騒いでいるわけではなく、スマートフォンを触っている生徒が数名いるクラス
    - ② 常に数名が会話をしている生徒がいるクラス
    - ③ 昼休み後で寝ている生徒が1/3ほどのクラス
  2. 前回の課題を相互採点すること
- 提出：Google Form
  - 締め切り：土曜日17時

21